

イボニシの大量産卵

イボニシは潮間帯の岩礁に普通に見られる小型の巻貝です。1970年代頃から船底に付着するフジツボを駆除する目的で使用された有機スズ化合物(TBT)の船底塗料が、環境ホルモンとして巻貝類に雌化現象(インボセックス)を引き起こすことが判明し、イボニシ、バイ等が激減しました。

近年、羽田空港東側の砂留堤にイボニシの生息していることを確認しておりましたが、7月4日、大量の産卵を観察しました。

このことは1991年のTBT使用規制により環境条件が改善された結果ではないかと思われます。

なお、イボニシは特有の辛みがありますが、珍味として酒の肴にもされる貝です。



イボニシと産み付けられた卵塊



イボニシ



卵塊の拡大写真



砂留堤に産み付けられた大量の卵塊